

# ものづくり現場の生産性を飛躍的に高める

—— 共通言語を身に付け、知恵を伝承



一般社団法人 ものづくり日本語検定協会  
理事 井戸田 勲

—— 「日本式ものづくりオンライン検定 (MOK) とはどういったものでしょうか。ねらいは？」

世界のどの国や地域でも“ものづくり現場”の根っこは同じです。顧客が要求する水準の品質、コスト、納期をいかに達成するか。そのために必要なのは、ものづくり現場での共通言語です。言葉を身に付け、ものづくりの知恵を伝承するようにしなければなりません。

MOKの主な対象は、日本語能力試験 (JLPT) N3以上の海外の日系企業で働いている、あるいはこれから働きたいという現地の社会人および学生です。仕事に必要な日本語のコミュニケーション能力と、日本のものづくりの知識を高めるため、eラーニング学習とオンライン検定試験で構成される総合サービスです。eラーニング講座はパソコンやスマホでいつでも、どこでも、何回でも無料で視聴できます。動画を数多く取り入れて、頭に入りやすくしています。受講の登録をして、一定レベルまで学習したら検定を受験します。受験料は1人1回2400円。受験者には取得したスコアが記載された認定証が発効される仕組みになっています。

結果を確認したら、再度講座を視聴して学習し、再度受験。こうした学習サイクルを回すことで、日本語コミュニケーション能力を高められるようになっています。

—— 検定試験のレベルは？

基礎 (Fundamental) と上級 (Advanced) の2つのコースがあります。

基礎コースの目安は、ものづくり現場で十分

にコミュニケーションができ、作業内容の把握だけでなく、安全管理もできること。上級コースは、ものづくりに関するマネジメントに必要な知識の習得。入社5年以上でマネジメント層までが対象になります。ものづくり現場で仕事をするだけでなく、部下の指導や職場環境の改善・提案ができる。さらには経営に関わることが可能なレベルです。

2019年から日本語だけでなく、英語でも始めました。日本語・英語を合わせたこれまでの受験者数は延べ8千人以上になります。

〈日系企業の受験実績〉トヨタ自動車、本田技研工業、三菱自動車、三井住友海上火災保険、味の素、プラザ工業など250社以上  
〈受験者国籍〉台湾、中国、ベトナム、インドネシア、トルコ、エジプトなど20カ国以上

コロナ禍にあっても、スマホがあればできるので、世界中から多くの問い合わせがあります。

—— 今後の抱負をお聞かせください。

私自身、四十数年間にわたり国際間の技術移転事業に携わって来て強く感じているのは、日本のものづくり能力への評価と期待が大きいことです。アジア、アフリカなど新興国地域をはじめ国際社会の中で一目も二目も置かれているのです。

こうした期待に応えられるよう、MOKをさらに拡充して海外のものづくり人材育成の一端を担っていきたいと考えています。

（いどた・いさお）科学技術映像の配信事業を始め、国内のものづくり中小企業の製品・技術の動画共有サイトの構築により、中小企業の国内外の販路開拓、ものづくり文化の移転に貢献するため、ものづくりオンライン検定事業などを展開している。一般社団法人日本技術者連盟 専務理事、一般社団法人ものづくり日本語検定協会 理事。